

2007年2月9日  
住友化学株式会社

**「プロピレンオキサイド新製法の開発と工業化」が  
平成18年度 日本化学会「化学技術賞」を受賞**

このほど、住友化学の「プロピレンオキサイド新製法の開発と工業化」が、社団法人日本化学会より、平成18年度「化学技術賞」を受賞しました。

日本化学会は、化学に関する学術の進歩普及、産業の発展および生活の向上に寄与することを目的に1878年に創立された、会員数約3万4千名を擁する化学分野における国内最大の学会で、「化学技術賞」は、日本の化学工業の技術に関して特に顕著な業績のあったものに毎年贈られます。本年は当社を含めた5件が受賞しました。

「プロピレンオキサイド」は、従来、塩素を用いる塩素法やスチレンモノマーを併産する併産法などの製法で生産されており、塩素化合物が副生される問題や、併産品の市況に左右される課題などがありました。新しいプロセスは、クメンを循環使用するという新しい製法により、副生物や併産品を生じることなく「プロピレンオキサイド」だけを生産することができるとともに、当社が独自開発した高性能触媒により、高い製品収率を達成しています。さらに、各工程の反応熱を回収し有効活用するなど、省資源・省エネルギーを実現するグリーンプロセスでもあります。

新製法によるプラントは、当社千葉工場で2003年に商業運転を開始して以降、順調な稼働を続けています。また、現在、当社とサウジアラビアの国営企業、サウジ・アラムコ社との合弁事業である、石油精製と石油化学の統合コンプレックス計画（「ラービグ計画」）における「プロピレンオキサイド」の製造設備についても、同製法によるプラントの建設を進めています。

住友化学は、今後とも、蓄積された幅広い技術を活用し、高い経済性と環境負荷の少ない新製法の開発に、積極的に取り組んでまいります。

以上